研究課題　藤波家旧蔵史料の調査・研究

研究経費　四〇万九七六〇円（前年度よりの繰越分）

研究組織

　研究代表者　　　高橋秀樹（國學院大學）

　所内共同研究者　尾上陽介・遠藤珠紀

　所外共同研究者　田中大喜（国立歴史民俗博物館）・比企貴之（國學院大學）

研究の概要

（１）課題の概要

　神宮祭主であった藤波家の旧蔵史料は、宮内庁書陵部や國學院大學の史料群が知られているが、史料編纂所にも「藤波家蔵書」の蔵書印をもつ近世写本が所蔵されているほか、各地の所蔵機関に旧蔵の文書や書籍が所蔵されている。また、国立歴史民俗博物館の「広橋家旧蔵記録文書典籍類」が明治時代末～大正時代には藤波家に所蔵されていたことも知られており、その時期に複数回作成された蔵書目録が史料編纂所・東洋文庫、國學院大學に現蔵されている。  
昨年度は、各所蔵機関の蔵書目録等から判明する藤波家旧蔵史料をデータ化し、京都学・歴彩館、徳島大学等の現蔵史料を調査した。そこで本年度は、①未調査分の史料調査を行い、データの充実を図る。②昨年度画像データを取得した複数の蔵書目録の分析を行って、目録間の異同と、現存する旧蔵書との関係を明らかにし、複数の所蔵機関にまたがる公家文庫を総合的に研究するための基礎を築く。③奥書等の分析から祭主家がどのように公家日記を集積したのか、またどのような経緯を経て蔵書が散逸していったのかを関係史料から追究する。

（２）研究の成果

　本共同研究の研究成果として刊行した『東京大学史料編纂所研究成果報告二〇二一－八　藤波家旧蔵史料の調査･研究』（研究代表者高橋秀樹、二〇二一年一一月）には、下記の論考および史料翻刻を掲載している。  
高橋秀樹「藤波家旧蔵史料の現状と伝来」は、シンポジウム報告以後に判明したものを含め、三三の所蔵機関・個人に現蔵あるいは旧蔵されている藤波本、市場に出て現蔵者不明の藤波本を取り上げ、いくつかの蔵書目録の内容も踏まえて、藤波家蔵書の形成・散逸の過程をたどった。  
比企貴之「祭主藤波家関係史料の所在とその性格」は、中世～近世の藤波家をとりまく状況を念頭に置きつつ、神宮文庫・神宮徴古館農業館・國學院大學図書館「藤波家文書」・東京大学文学部宗教学研究室「正親町家旧蔵神道関係史料」の内容を考察する。  
尾上陽介「東京大学史料編纂所所蔵『藤波家蔵文書記録目録』に見える『民経記』原本の構成」は、継目の糊が剥がれた状態の時に作成された『藤波家蔵文書記録目録』における『民経記』の記述と国立歴史民俗博物館に所蔵されている現状とを比較し、近代以前の『民経記』原本のあり方や改装過程を復元する。  
田中大喜「「広橋家旧蔵記録文書典籍類」所収文書群の書誌的考察」は、題簽や押紙の記号から、類纂が行われた文書群、並び替えが行われた文書群、原形を留める文書群に分類し、『藤波家蔵文書記録目録』と比較することで、目録の性格を明らかにした。  
遠藤珠紀「広橋家文書の伝来寸描」は、鎌倉～室町期における家記の保管・伝領の様相を示した上で、他家から混入したとみられる國學院大學図書館所蔵『文正元年十二月記』と国立歴史民俗博物館所蔵『文和元年（観応三年）記』の記主を探る。  
藤波家･広橋家蔵書目録翻刻集として、「國學院大學図書館所蔵『藤波･広橋両家ノ古文書調』」（梶田航平）、「国立公文書館所蔵『広橋家記録類目録』」（小堀貴史・百瀬顕永）、「東京大学史料編纂所所蔵『広橋家歴代記録目録』（『諸家歴代日記目録』の内）」（百瀬顕永）、「東京大学史料編纂所所蔵『広橋家記録目録』（『諸家蔵書目録甲四』の内）」（小堀貴史）、「東京大学史料編纂所所蔵『広橋家所蔵古鈔本記録文書目録』」（日野真木・佐藤瑞樹）を掲載した。  
本報告書には、藤波家・広橋家史料について考えるための基礎となる史料紹介、伴瀬明美「史料編纂所所蔵『古文書目録』（『藤波家蔵文書記録目録』）」を再録している。  
公家日記に関心をもつ研究者、武家文書に関心をもつ研究者、神道・神社史料に関心をもつ研究者が共同研究を行うことで、多様な性格をもつ史料群について多面的・多角的な研究を行うことができた。また、補助員として参加してくれた國學院大學大学院生による史料翻刻を彼らの研究業績として掲載できたことにも意義があった。